

# Project

香川大学には学生たちが主体となって活動している様々な学生プロジェクトがあります。香川県内の各地域で、地元企業や自治体、そして地域の皆様のご協力を得ながら、学生たちは日々活動に取り組んでいます。

## 直島地域活性化プロジェクト 復活！ 観光ボランティアガイド in 直島

「学生」だからこそできる地域貢献  
経済学部 経営システム学科 2 回生  
藤森世紀

地域の課題は「会話」の中にある。この言葉通り、この活動も会話から発見した課題でした。数年前まで直島では島民の方々が主体となりボランティアガイドを行っていましたが、高齢化に伴い休止していました。そこで直島に15年間、関わらせていただいている私たち大学生が、このボランティアガイドを復活させたい、という思いからこの活動を始めました。7月からの約4か月間、島民の方々とベネッセアートサイト直島の職員の方々のご協力のもと研修を行いました。直島の歴史や文化の知識はもちろん、それ以上に研修では言葉遣いや案内の仕方など、「礼儀」を中心にご指導いただきました。研修後、秋田県の高中生や韓国の観光客など、現在までに計4回の本格ガイドを実施しました。この活動を行うなかで、情報共有やメンバー間でのガイド経験の差など、多くの課題が明らかになりました。これらの課題を解決するため、ガイド予約がない日曜日にメンバー間での研修を行いました。また毎週のミーティングでは直島に関するクイズを出題し勉強しています。今後は、島民の方々と巻き込み、島民の方々が主体となってボランティアガイドを行える仕組みづくりを目指したいと考えています。



約4か月、ガイド経験者の方々にご指導いただき、研修を実施。自分たちの課題を一つ一つ解決しました。



2回目のガイド。國學院大学北海道短期大学部のゼミ生の方々に直島のアートを案内。



ゼミ生の方々と記念撮影。



ガイドツアーのランチは、本プロジェクトのカフェで。人気No.1の「直島☆のりの丼」が好評でした。



本プロジェクトが営業しているカフェで。プロジェクトのメンバーが交替で毎週土日と祝日に営業しています。



毎週月曜日に開くミーティング。今年から直島に関するクイズを毎週出題しています。



子どもたちと一緒に直島小学校で育てた大豆を使ったワークショップ。美味しい豆腐を作りました。



直島で開催された環境フェスタに参加。直島地域活性化プロジェクトは、活動の軸であるカフェ（和カフェ）の営業に加え、ガイドや大豆のワークショップなど、様々な活動をしています。現在のメンバーは50人。直島を盛り上げるために日々活動しています。



直島で毎年開かれる運動会でリレーに参加しました。メンバー同士の絆がより深まりました。

# Topics

## 瀬戸内国際芸術祭 2019 に出展。 現代アートの視点で、小豆島に演劇を。香川大学 × 現代アート

2019年は3年に1度の国際芸術祭、瀬戸内国際芸術祭2019が瀬戸内の島々で開催されます。香川大学は2019年から本格的に瀬戸内国際芸術祭に参加し、香川大学の特色を活かした作品を出展予定です。その作品が演劇2部作『演劇でみる小豆島』です。夏と秋のそれぞれの会期で上演する演劇2部作は、島の若い世代が自分たちの未来をどのように考え、選択するのかをテーマに、香川県の高中生とともに演劇の脚本や舞台を制作します。発表する舞台は小豆島に江戸時代に建てられた2つの農村歌舞伎舞台（中山地区、肥土山地区）で、それぞれの演劇を夏と秋に公演します。

香川大学がこれまで地域活性化プロジェクトで培ってきたノウハウや防災研究領域から長年続いている地質調査の資料などを作品に取り込みながら舞台の制作が進んでいます。島にまだ人類が住んでいない頃から江戸時代に建てられた舞台、そして現在とこれからの未来を香大生と高校生と一緒に考えることが作品の最も大切な部分となります。地方が抱える少子化や高齢化などの懸念される問題に対応すべき未来はすぐそこにやってきます。2019年は地域に根ざす香川大学がアートの力を使って創造性を育み、各学部の学問と融合させて新しい未来を切り開くスタートの年となるでしょう。



創造工学部 造形・メディアデザインコース講師  
柴田悠基



中山農村歌舞伎舞台

## 「先端と応用」「世界と地域」「今と未来」をつなぐ 香川大学イノベーションデザイン研究所 (KIDI)

2018年10月、香川大学では、産学官の「組織」対「組織」での大型共同研究を推進するため、「イノベーションデザイン研究所 (KIDI)」を新設しました。本学では、これまでも様々な分野で、企業や自治体等との共同研究を進めてきましたが、KIDIでは、昨今の高度化・複雑化する課題解決に求められる分野横断的な大型研究プロジェクトに対応するため、所属の枠を超えた学内外の研究者によるチーム編成を行い、プロジェクトマネージャーが迅速で円滑な研究の進行に向け進捗管理にあたります。また、研究成果の知財管理にも専門人材を配置し、強力で一

体的なマネジメントを行います。これにより、最先端の研究開発から社会実証までの一連のステップを着実に効率良く進展させることが可能です。今話題となっているAIや自動運転は、技術だけでは社会に浸透できません。法整備や使う人の心など社会制度や社会受容も考える必要があります。香川大学が擁する多様な研究者と企業や自治体等の方々が目的を共有し共創する、作る側・使う側の両者の視点を踏まえたイノベーションをKIDIは目指しています。

イノベーションデザイン研究所長  
片岡郁雄 (理事・副学長)

